

# 幼児教育指導案

令和6年10月 5歳児 指導者 関川 香里

## 1 研究との関わり

幼児は、他の幼児と触れ合い遊ぶ中で、自分の感情や意志を表現しながら友達と遊ぶことを楽しむようになる。しかし時には、幼児同士の自己の主張がぶつかり合い「もめごと」が起こる。その中で幼児は悔しい、悲しいなどの気持ちや、その気持ちが晴れたときの感覚などを味わい、様々な感情を交流しながら互いに理解し合う。そして、幼児同士の関わりが深まるにつれて、友達と共に目的をもって遊ぶようになる。

このような幼児を育むために、葛藤し気持ちを調整したり、友達の思いや考えに気付き理解し合ったりするなど、自分の気持ちと向き合い葛藤を乗り越える経験を重ねることが重要であると考えた。

日頃の幼児の姿を見ると、気の合う友達2、3人と誘い合い、いろいろなことに興味をもって遊んでいる。そして、目的をもちそれを実現しようしたり、友達とやってみたいことが重なると、大きなイメージの中で一緒に遊んだりするようになってきている。しかし、幼児同士の思いが違うときに、友達の思いを理解できず「もめごと」が起こる。

実際の保育では、幼児が興味をもったことや、やりたいことを存分に楽しめるような環境の構成をし、幼児一人一人が自己を発揮しながら遊べるようにしたい。そのため教師は、幼児一人一人の思いを受け止め、目的を実現しようとする姿を支えていく。また、友達とやってみたいこと（目的）が生まれたときは、幼児同士の思いがつながるような援助をし、一人では得られない楽しさも味わえるようにする。幼児が自己を発揮しながら友達と遊ぶことで、時には「もめごと」が起こる。このことを幼児の育ちを促す大切なできごとと捉え、幼児が心を振り動かし、自分の気持ちと向き合ったり相手の気持ちにも思いを巡らせたりしながら、自分で納得して次に進めるようにしたい。

## 2 指導計画 (22名)

期	月	発達の過程	テーマに関する幼児の姿	研究に関する ○ねらい及び●内容
10	4月～5月中旬	自分なりに遊びに取り組んだり、気の合う友達と一緒に遊んだりしながら、新しい環境に慣れていく時期	年中時に仲のよかった友達と一緒に遊んだり、新しい友達に親しみをもって関わったりする。	○ 気の合う友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ● 気の合う友達に自分の考えを言葉で伝える。
11	5月中旬～7月	自分の思いを伝えながら、友達と一緒にいろいろな遊びに取り組み、自分を発揮する時期	友達と一緒にイメージをもって遊びに取り組むようになってくるが、遊びのイメージや思いの違いからもめごとが起こったり、遊びが消滅したりする。 友達と一緒に遊びに必要なものを考えたり、いろいろな用具を使い試したりしながら遊ぶ。	○ 気の合う友達と一緒に、考えたり試したりしながら遊ぶ。 ● 自分なりの思いやイメージを友達に伝えたり、一緒に考えたりしながら遊ぶ。
12	9月～10月中旬	目的に向かって自分なりに頑張ったり、友達と力を合わせたりしながら遊ぶ時期	友達同士で遊びを進めようとするが、集団が大きくなるとスムーズに進められず、遊びが中断したり、教師を頼ったりする。	○ 思いや考えを伝え合いながら、友達と一緒に遊びを進める。 ● 遊び方やルールを友達と一緒に考えたり、共有したりしながら遊びを進める。

13 (接続期)	10月 月中旬～ 12月	友達関係を深めながら、共通の目的に向かって自分たちでより楽しく遊びを進めようとする時期	いろいろな素材や用具を使って自分のイメージしたことや表現したり、友達と考えを共有したりすることを楽しむようになる。 グループの友達と共通の目的に向かい、協力して取り組むようになる。	○ 友達と共通の目的をもち、話し合いながら自分たちで遊びを進めていく楽しさを味わう。 ● 友達と思いを伝え合ったり、遊び方やルールを話し合ったりしながら自分たちで遊びを進める。
14 (接続期)	1月～ 3月	一つのことにじっくりと取り組んだり、友達と仲間意識をもって遊びや生活を進めたりして、自信をもって行動する時期	共通の目的に向かって、自分たちで考えたり、折り合いを付けたりしながら遊びや活動に取り組むようになる。	○ 共通の目的に向かって、友達と相談したり協力したりしながら最後まで取り組むことで達成感や充実感を味わう。 ● 自分の力を発揮したり友達と認め合ったりする。 ● 遊びに必要なものや遊び方を友達と相談し、自分たちで遊びを進める。

### 3 前週の幼児の姿から捉えた発達

- 踊りたい音楽を選曲して思い思いの動きで表現する幼児や、リレーで一緒に走る友達を意識して競い合い全力で走る幼児、縄跳びに挑戦する幼児など、友達と誘い合いながら体を動かして遊んだ。
  - 幼児一人一人が「アニメキャラクターやアイドルの衣装を作つて着たい」「友達がしていたペプサートをしたい」など、友達がやっていることに興味をもつと、まねてやってみようとした。やり方や方法が分からないと友達同士で教え合つて実現する幼児もいた。
  - 段ボール箱やコンテナ、布、ソフト積み木などを使って空間を作り、家や病院などのイメージをもつて遊んだ。このような大きなイメージの中で、それぞれの幼児が役になって動いたり友達と会話をしたりしながら遊んだ。
  - 小学校の就学時検診を行つた幼児に、学校での出来事や、幼稚園との違いを尋ねると、自分の言葉で答えた。また、購入したランドセルについて、声を弾ませながら話していた。小学校の就学時検診を控えている幼児にも「東小学校はいつ?」「楽しみ」と話しかけていた。幼児たちの様子から、小学校に興味をもち、授業をイメージして遊ぶ様子が見られた。
  - 友達との関わりにおいて、自分の思いを互いに自己主張し続ける幼児や、友達に強い口調で自分の思いを伝える幼児、「もう遊ばない」という言葉で思いと違う表現をする幼児、思い通りにならないと怒る幼児、友達の思いを受け止められずに自分の思いどおりにしようとする幼児などがいて、度々「もめごと」が起こつた。
- このように、友達が楽しそうにしていることに興味をもちやってみようしたり、一緒にやってみたいという思いをもつたりしている。そして、友達と思いやイメージが重なることや、イメージが広がることにおもしろさを感じるようになってきている。
- また、やりたいことをして楽しさを味わうことで、その幼児らしさが発揮されるようになった。このように自己を発揮しながら遊ぶようになったことで、友達と「もめごと」が起こることが増えた。

### 4 今週の保育

#### (1) 今週のねらい

- |   |
|---|
| ○友達と一緒に戸外で体を動かし、遊ぶ楽しさを味わう。                |
| ○友達と共通の目的をもち、思いやイメージを伝え合いながら目的を実現するように遊ぶ。 |

#### (2) 今週の内容

- いろいろな運動的な遊びに取り組んだり、思い切り体を動かしたりして遊ぶ。

- 興味や目的が重なる友達と、思いやイメージを伝え合いながら遊ぶ。
- いろいろな道具や素材を使いながら見立てて遊んだり、イメージをもったりして遊ぶ。
- 共通の目的に向かって、目的を実現する方法を考えたり試したりしながら遊ぶ。

### (3) 今週の環境の構成の視点

◎幼児が友達と一緒に戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを味わうための環境の構成

- ・戸外で思い切り体を動かして遊ぶ動機付けとなるようなものや、ダイナミックに遊ぶことができるようなものを準備する。また、幼児が自分たちで必要なものを準備して遊び始めるができるようにしておく。
- ・教師も仲間として遊びに参加し、幼児一人一人の取組のよさや可能性を具体的に認め励ましたり、教師がモデルとなる姿を見せたりして意欲を引き出す。

◎幼児が友達と共に目的をもち、思いやイメージを伝え合いながら目的を実現するように遊ぶための環境の構成

- ・幼児一人では扱いにくいものや、数に限りがあるもの、使い方によって様々な遊び方ができるものを用意する。
- ・幼児が目的を実現する過程を楽しめるように、幼児同士で試行錯誤する姿を認めて励ます。また、目的を実現する方法が分からずに困っているときは、これまでの経験の中で使った素材や方法にも気付かせていく。
- ・教師は、幼児が目的を実現する姿を認め、幼児たちが遊びを作る楽しさを感じられるように期待が膨らむような言葉を掛ける。
- ・友達と思いやイメージが違うことで「もめごと」が起きたときは、教師はすぐに援助せず、思いを伝え合う姿を見守る。そして、幼児一人一人の思いや発達の課題、互いの関係性などを把握する。幼児同士の言い合いが続くときは、互いの思いに気付かせたり、幼児の気持ちを揺さぶるような言葉を掛けたりする。そして、自分と友達の気持ちに向き合い混沌とした気持ちで過ごす時間も保障する。それでもなお時間が過ぎていくときは双方の幼児の話を聞き、幼児自身がどのようにしたいのか決めて動き出せるように援助する。

## 5 本日の保育

### (1) ねらい

○友達と共に目的をもち、思いやイメージを伝え合いながら目的を実現するように遊ぶ。

### (2) 内容

- 友達と思い切り体を動かして遊ぶ。
- 友達と思いやイメージを伝え合い、目的を実現する方法を考えながら遊ぶ。

### (3) 展開

時刻 (目安)	◎環境の構成 ☆予想される幼児の姿 ◆環境の再構成や援助 □研究上の手立て
8:30~ 登園 9:00~ 思い思 いに遊ぶ	<p>☆登園し、所持品の始末をする。 ◆幼児一人一人と挨拶を交わし、温かい雰囲気で迎え入れる。</p> <p>◎テラス前に短縄跳びを用意しておく。 ☆M児、S児は、前跳びが跳べるようになりたいという思いをもって、繰り返し挑戦するだろう。 ◆幼児たちが繰り返し挑戦する姿を認め、オノマトペを使って跳ぶリズムをつかめるような援助をする。また、周りの友達からこつを聞いて挑戦できるような言葉を掛けれる。人数が増えたときは、場所を変えるなど配慮し、一人一人がじっくりと取り組めるようにする。 ☆上手くいかなくとも頑張る幼児もいれば、跳べずに諦める幼児もいるかもしれない。 ◆諦めずに跳ぶ気持ちを支えられるよう、幼児一人一人の取組のよさや可能性を認め、少しずつ上達していることを感じられるような言葉をかける。</p>

◎□花壇近くにタスキ、リングバトン、カラーコーン、CDデッキ、ポンポン、なることを用意しておく。

☆J児、O児、U児は、なるこや縄跳びを手に持ち、音楽に合わせて踊ったり体を動かしたりするだろう。

◆教師も一緒に遊び、楽しそうな雰囲気を作る。また、幼児の動きをそのまま言葉にしたり、幼児の動きをまねて認めたりする。

☆友達や教師が踊る様子を近くで見ている幼児がいるかもしれない。

◆教師は、近くで様子を見ている幼児を誘い、幼児が遊ぶきっかけを作る。

☆前日リレーをしていたE児、G児、L児は、互いに誘い合い、なりたいチームのタスキを肩に掛け、言葉を掛け合いながら自分たちでカラーコーンを用意するだろう。

☆遊ぶ人数が少ないときは、誘い合って遊び始めるかもしれない。

◆自分たちで準備して遊びを進めていく姿を認めていく。

☆友達の「よういスタート」の言葉で走り出し、全力で走ったり友達と競り合ったりするだろう。また、走っている友達やチームの友達を応援する幼児もいるだろう。

◆教師も遊びに参加し、走る幼児を応援し励ます。幼児一人一人の意欲を高めるために音楽をかけ、その幼児に応じてスピードを変えて走る。

☆E児は友達に抜かされると、悔しさから歩き出すだろう。そのことを周りの友達から指摘されると、友達に暴言を言って遊びから離れようとするだろう。

□◆周りの友達には、E児の悔しさをそっと伝え、E児が気持ちを立て直して戻るまで見守るように言葉を掛ける。またE児に聞こえるよう、抜かされても力を抜かずに走り切る他の幼児を認めたり、「E児、抜かされて諦めちゃっていいのかな。何回も走って早く走れるようになったら、抜き返せるくらいになるかもしれないよ」と、気持ちを揺さぶるような言葉を掛けたりする。

☆E児は気持ちを切り替えられずにその場を離れ、テラスで一人過ごすかもしれない。

□◆教師はE児の様子をしばらく見守り、タイミングを見計らい「悔しかったよね」と寄り添う言葉を掛ける。友達には「E児、きっと悔しくてあのようなことを言ったけれど、本当はみんなとリレーを続けたいと思っていると思うよ。今は悔しい気持ちと戦っているから、もう少ししたら、また頑張ろうって思えるように励ましたり、リレーに誘ったりしてみてね」と、言葉を掛ける。

☆E児はしばらく自分の気持ちと向き合うと、友達との遊びに戻るだろう。

□◆E児が自分で気持ちを切り替えられたとき、E児の行動をそのまま言葉にして認め、「次は頑張ろう」「速く走れるようにたくさん走ろう」など、次の意欲につながる言葉を掛ける。

◎□絵本の部屋に、学習机、椅子、チョーク、黒板消し、鉛筆、消しゴム、用紙を用意しておく。

☆G児、I児、M児、V児たちは、小学校というイメージをもち、先生役や児童役を決め、必要なものを準備するだろう。

☆役を決めると「1時間目は算数の授業です」「はーい」「次は給食です」と、小学校生活を想定したイメージの中で、先生や児童になりきって遊ぶだろう。

◆教師は児童役として関わり、小学校のイメージが膨らむような言葉を掛ける。

☆幼児同士の学校や授業に対するイメージや、「こんなふうに遊びたい」という思いの違いによって「もめごと」が起こるかもしれない。

◆□教師は幼児同士で思いやイメージを伝え合う姿を認める。幼児同士の関係が原因で、互いに思いを伝ええない状況が見られたときは「どうしたいのかな?」と、言葉を掛け、互いの思いに気付かせる。それでも沈黙が続くときは、「このままいいの?」「これからどうするの?」と、言葉を掛け、自分自身や友達の気持ちと向き合い、一人一人が納得して次に進めるようにする。

		<p>◎□保育室に、段ボール、ソフト積み木、プラ段ボール、ゴザ、ハンガーラック、パーテーションを用意しておく。</p> <p>☆B児、C児、D児は、段ボールやソフト積み木、ハンガーラックなどを使い、足湯をイメージして空間を作るだろう。そして、足湯に足を入れるまねをしたり、イメージすることを伝え合ったりして遊ぶだろう。</p> <p>◆教師は仲間として遊びに参加し、幼児と交わす会話から、イメージが膨らむような言葉を掛ける。そして、幼児たちが友達とイメージを共有できるように、幼児の言葉を繰り返す。</p> <p>☆A児は段ボールやソフト積み木、ハンガーラックなどでパスタ屋さんをするための空間を作るだろう。そして、使いたい物が足りないと、足湯づくりをして遊ぶ幼児に借りようとするだろう。しかし友達に断られるかもしれない。そのときA児は、友達が使っている物を勝手に使い始め、もめごとが起こるかもしれない。</p> <p>◆□教師は幼児の言葉を繰り返し、友達の思いに気付かせる。そして幼児たちに「どうしたいの？」と、言葉を掛け、再度友達の思いを聞き、相手の思いに気付くように援助する。</p> <p>☆それでも幼児たちは、自分の思いを主張し続けるだろう。</p> <p>◆教師は幼児たちの思いを受け止め、以前使ったことのある素材や方法を提案する。</p> <p>☆教師の提案で、自分のイメージを実現するかもしれない。しかし、教師の提案が幼児のイメージと合わないと「～じゃないとダメなんだよ」と、自分の思いを主張し続け、話が平行線になるかもしれない。</p> <p>◆□教師は、幼児たちの困り感に共感し、「どういたらいいのかな？」と言葉をかけて心の動きを見守る。</p> <p>☆B児、C児、D児たちは、A児に根負けして使っている物を貸すかもしれない。</p> <p>◆□B児、C児、D児たちが納得しているとは限らないため「本当にそれでいいの？」と、問いかけて気持ちを揺さぶる。納得して決めたことであれば、A児が、B児、C児、D児たちの気持ちに思いを巡らせることができるよう「自分たちも使いたいけど、貸してくれたんだね」と、言葉を掛ける。納得できない様子が見られたときは、「このままだとお互いにやりたいことができないけれど、どうする？」と、言葉を掛け、幼児たちと一緒に方法を考える。</p>		
11：15～ 片付けをする 11：30 給食の準備をする 11：45 給食を食べる 13：00 全体活動 13：45 降園準備をする 14：00 降園		<p>◎振り返りでは、幼児が楽しかったことや困ったことなどを伝え合う場や時間を設け、学級全体で共有し、翌日の遊びに期待をもつことができるようにする。困りごとについては、幼児が自分事として考えることができるような言葉を掛ける。</p> <p>◆幼児一人一人の遊ぶことへの思いに共感したり、遊びへの思いが翌日につながるような言葉を掛けたりする。</p> <p>☆幼児は楽しかったことを思い思いに話したり、友達の話を聞いたりすることで、翌日の遊びに期待をもつだろう。</p>		
反省・評価の観点	幼児側	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戸外で自ら体を動かして遊ぶ姿が見られたか。</li> <li>・友達と共に目的をもって遊ぶ姿や、思いやイメージを伝え合う姿は見られたか。</li> <li>・友達と「もめごと」が起きたときに、相手の思いや考えに気付き、自分や友達の気持ちと向き合いながら、今後どのようにするかを幼児自身が決めて動き出す姿は見られたか。</li> </ul>	教師側	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思わず体を動かしたくなるような環境や、様々な動きを引き出せるような環境が準備されていたか。また、体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるよう教師が関わっていたか。</li> <li>・幼児同士が目的を見いだせるような環境が準備できていたか。また、幼児同士で思いやイメージなどを伝え合い、目的を実現しようとすることができるような教師の援助ができていたか。</li> </ul>